



カイは、えきで、れっしゃがくるのをまっています。れっしゃは、とおくから、いきおいよくはしってくと、だんだんスピードをおとして、とまりました。

「このれっしゃは、『まちのえき』いき、『まちのえき』いきです」

ホームに、こえがながれます。

「これにのればいいんだよね」

カイは、リュックサックをしょいあげると、れっしゃにのりこみました。

ジリリリリと、はっしゃのベルがなります。

れっしゃは、ひとつ、おおきくいきをつくと、ガオン。

おとをたてて、はしりだしました。

チャッチャッ。チャッチャッチャッ。スタタン、スタタン、スタタン、スタタン。

えきは、ぐんぐんよこへすべっていき、やがて見えなくなりしました。

まどのを、けしきがとんでいきます。

カイは、あいているせきはないかなと、ひとりでれっしゃのなかをあるいてきました。ところが、しゃないはこんでいて、どこもいっぱいです。

れっしゃには、いろいろなひとがのっていました。わかひひとに、おとしより。おとこのひとに、おんなのひと。